

「空堀川流域広域雨水整備検討協議会」第2回幹事会

1 日時・場所

平成30年2月26日(月) 11時から12時まで
都庁第二本庁舎8階11A会議室

2 出席者

別紙出席名簿のとおり

3 議題

- (1) 対象エリアについて
- (2) 検討パターン別の幹線ルートについて

4 配布資料

議事次第

資料1 対象エリアについて

資料2 検討パターン別の幹線ルートについて

5 議事録

[幹事長挨拶]

[対象エリアについて事務局より説明(資料1)]

東大和市都市建設部下水道課長

白抜きエリアについては直接、計画降雨50mmを空堀川への排出可能であるため、管きよの新設は必要ないということか。

[事務局]

検討対象エリアの雨水を別途新設する管に入れることで、白抜きエリアは、既設の道路排水管を活かして50mm降雨対応が可能となるため、幹となる管の新設の必要はない。

東京都都市整備局都市基盤部施設計画担当課長

既設の道路排水管の能力は、道路以外の雨水を含めると20mm程度の降雨にしか対応できないということか。

[事務局]

そうである。道路のみの排水であると50mm対応されていると思うが、道路以外の地先からの流出分を考慮し評価した結果である。

[検討パターン別の幹線ルートについて事務局より説明（資料2）]

武蔵村山市都市整備部道路下水道課長

今回の委託で、検討4案について各市の事業費は算出可能か。

[事務局]

算出可能である。事業費は、同じ条件下で、今後算出していく。

武蔵村山市都市整備部道路下水道課長

最終的に案を選定する根拠として、各市の負担額が提示される必要がある。

立川市環境下水道部下水道工務課

判断要素として、事業費と工期は必要になると考える。また、事業費としては、広域幹線分だけでなく、公共下水道分も含めた各市の負担額が判らないと、判断できない。

[東京都下水道局流域下水道本部計画課長]

4案を比較したときに、一定の条件に基づく事業費と工期が出てくる。今回は、4案のうちどれがいいか優劣を判断するのではなく、このルート案で検討を進めることに対して意見を求めたい。

武蔵村山市都市整備部道路下水道課長

幹線ルート案の終点については、どのような根拠で設定したのか。

[事務局]

国土交通省が出している「下水道事業の手引」より、交付対象の範囲として、最上流市の対象面積の1/3、若しくは、水量の1/3となる地点という考えに基づき設定した。

東京都都市整備局都市基盤部施設計画担当課長

3月までのスケジュールについて、事務局のイメージはあるか。

[事務局]

第1回協議会で示したスケジュールでは厳しいと考えているが、次回幹事会にて今後の進め方を示したい。

「空堀川流域広域雨水整備検討協議会」

第二回幹事会 出席者名簿

所 属		備 考
都市整備局	都市基盤部施設計画担当課長	
下水道局	流域下水道本部技術部計画課長	
立川市	環境下水道部下水道工務課長	(代理)
東大和市	都市建設部下水道課長	
武蔵村山市	都市整備部道路下水道課長	